

原発、入札制度改革など市政との共通課題いくつも

市民連合・上越主催の「片桐なおみさんを励ます集い」が11日、市民プラザで開催されました。100人ほどの人たちが駆けつけ、片桐さんを県政のリーダーにしようという人たちの熱気に満ちた集いとなりました。また、今回のつどいで特徴的だったのは、県政といえども、原発や入札制度改革などで市政との共通課題がいくつもあることが浮き彫りになったことです。

主催者を代表して挨拶した馬場秀幸弁護士は、「ロシアのウクライナ侵略で普通の生活を滅茶苦茶にされている姿を見て、県政でも私たちの声を届けていく民主主義のルートが必要だと思っている」「今度のたたかひの最大の焦点は、柏崎刈羽原発を再稼働させるかどうかだ。戦争でもターゲットになる原発を再稼働させてはならない」「片桐さんは肝っ玉がすわっている女性だ。上越から、いっば

いのエールを送ってもらいたい」とのべました。

片桐なおみさんは72歳。新潟県経済同友会の代表副幹事です。馬場さんが言われた通りの「肝っ玉が座った」お母さんでした。「小泉元首相が言われるように、原発反対の運動に右も左もない。ウクライナで一番の規模、欧州で一番の規模の原発が攻撃を受けたが、柏崎刈羽原発は世界で最大の規模だ。私には農業のこと、雪のことなどやるべきことはたくさんあるが、1丁目1番地も2丁目も3丁目も原発だ」「新潟県の入札では随意契約が多く、指名競争入札も多い。これでは談合しやすい。改革が必要だ」「次世代の女性が生き生きできる社会をつくりたい。



女性にもうひと踏ん張りしてもらいたい」「私はのりりくらしして国のいいなりになるようなリーダーにはならない。みなさんに後悔させない」などとのべました。

片桐さんの話はユーモアもあって、わかりやすかったですね。



高田小町で9日、「21世紀の上越スタイル」プロジェクトの第2回会合が行われ参加しました。合併後20年となる3年後に、合併後の20年間の地域生活文化誌をまとめようという取組です。

この日は、私の高校時代の同期生、石塚正英さんが、これまで寄せられた企画等を紹介し、今後の活動計画について協議しました。

私は結婚式の変遷について書く予定ですが、会場には高校時代の同期生が数人いて、話もできました。

「21世紀の上越スタイル」プロジェクトが始まっています



【キュウリグサ】(再掲) ムラサキ科の雑草。漢字で「胡瓜草」と書きます。数年前、菱ヶ岳に登る道で初めて出会ったのですが、そこらの畑にいくらでもあるとか。葉をもむとキュウリのような匂いがします。花は3月から5月、青紫色の花を咲かせます。花言葉は「真実の愛」「愛しいひとへ」です。写真は吉川区小苗代にて撮影。

笹川春艸さんの墨画展に感動

笹川春艸さんの墨画展に初めて出かけてきました。40数点ものすばらしい作品を一度に観ることができ、至福のひと時を過ごさせていただきました。

注目した作品の1つは高田の雁木通りの絵です。掛軸の縦長の枠のなかに雁木の魅力をすべて入れた絵になっていました。この絵の中には2人の人間が小さく描かれています。この人間が描かれたことで雁木に生活感がもたらされていきました。



はしづめ法一の活動レポート

No.2057 2022.4.17

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見たある記」は ← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七〇四回 「ひとりぼっち」の白鳥

最近、高田城址公園の池に白鳥が一羽シベリアに帰れずに残っているというニュースが流れていましたが、私の地元にも「ひとりぼっち」の白鳥が一羽いました。

先日の日曜日の午後のことでした。安塚区に用があつて車を走らせていたら、吉川区内を流れる吉川の岩堰（いわせぎ）上流で白い大きな鳥の姿が目に入りました。

ひょっとしたら、「コウノトリ」かも知れないと思ひ、車を止めてデジタルカメラを向けると、クチバシの黒と黄色の混じり具合といい、首の太さといい、どう見ても白鳥にしか見えない鳥の姿がありました。

最初、何で白鳥がここにいるのだらうと思ひました。「高田城址公園のお堀から二〇〇ほど離れているのに、飛べたんだらうか」と疑問に思つたのです。よく考えてみれば、高田城址公園の白鳥は羽根に傷を負っているということですから、飛んでくるわけがありません。となると、これは別の白鳥です。上越にはもう一羽の、シベリアに帰れなかつた白鳥がいたのです。

私は白鳥の体のどこかに傷がついていてではないかと思ひ、カメラで白鳥を追いました。岩堰の上流はいま、たくさん水がたまつていて細長い池のようになっていきます。白鳥は、時どき向きを変えながら、ゆっくりと泳いでいました。

しかし、素人の目ではありましたが、白鳥には不自然な乱れは見当たりませんでした。近づいても逃げようとする様子もありません。体の内部に不調があるのかもしれない。私は勝手に判断し、翌日、市役所環境保全課に連絡をしました。

環境保全課では、現地で白鳥を確認してから、県の環境センターに伝えて対応することでした。これで一安心、そう思つて楽々したのですが、後で市役所から電話をもらつて心配になりました。じつは、現地に行つたけれども白鳥の姿を確認できな

かつたということです。

私が見た白鳥は飛び立つことが出来てどこかへ飛んで行つたのだらうか、それとも襲つてきた野生動物から逃げるのができなかつたのだらうか。どうあれ、しばらく様子を見るしかない、そう思ひました。

二日後、私は午前一〇時半頃、岩堰上流へ行きましました。すると、前回見た場所よりも一〇〇ほど上流の方に、白く丸くなっている生き物が見えました。デジタルカメラの望遠を使って見ると、先日の白鳥です。ああ、無事だったのか、とうれしくなりました。

気のせいかな、白鳥の動きは前回よりも活発に見えました。何よりも泳ぐスピードが速く感じられました。私が見ている少しの時間だけでも一〇〇ほど動いたのです。すぐに環境保全課に連絡すると、午後から現地に来て、白鳥の姿を確認。県の環境センターの職員も駆けつけてくれました。意識していたわけでもないのですが、県のセンター職員が現地に着いたとき、私もそこにいました。

一緒に白鳥を探したところ、川の中にはおらず、川の北側にある道之下の田んぼでエサを探していました。川から歩いて上がったか、そこまで飛び立ったのかどちらかですが、思つていた以上に元気でした。それから五、六分後のことでした。私たちの動きに気づいた白鳥は突然、羽根を広げ、河沢集落をめざして飛び立ったのです。びっくりした私は、デジタルカメラを動画に切り替え、白鳥の姿を追いました。

環境センター職員の話によると、県内では、これまでシベリアに帰れず、夏までいた白鳥や秋まで生き伸びて仲間たちと合流した白鳥がいたそうです。白鳥は家族で旅をするとのことですが、この白鳥には仲間の白鳥たちが再びやってくる季節まで生き伸びて家族と再会してほしいですね。

しだれ桜の木の下で南京玉すだれ

市内の桜の多くは10日、11日あたりに花時を迎えました。私は、10日に地元の吉川区源地域にある三大しだれ桜（村屋の村松家、報恩寺、尾神）を楽しませてもらいました。

このうち、吉川区村屋の村松家のしだれ桜の下では、南京玉すだれ同好会（あさつての会）のみなさんが見事な演技を繰り広げました。

「さて、さて、さて、さては南京玉すだれ……」、これに合わせて、次々と繰り出されたのは謙信公大橋、高田城の三重櫓、専徳寺のカゴ、村松家のしだれ桜などでした。

会場では、「♪さては南京玉すだれ」に合わせて、子どもたちがシャボン玉も飛ばして遊んでいました。右上のイラストは玉すだれで村松家のしだれ桜を作ったところです。

終わってからは、村松家の裏山の大規模なカタクリ群生地を玉すだれ同好会のメンバーのみなさんなどとともに見せてもらいました。広い林のなかに咲いたたくさんカタクリの花を見た人たちは、「すごい！」という声を上げていました。日頃から手入れが実



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	4月6日(水)	4月13日(水)
上越南消防署	0.057	0.047
上越北消防署	0.047	0.047
新井消防署	0.050	0.057
頸北消防署	0.050	0.043
頸南消防署	0.063	0.057
東頸消防署	0.047	0.040
名立分遣所	0.057	0.053
高士分遣所	0.047	0.053